

須坂市総合教育会議 議事録

1. 日時：2024 年 9 月 30 日（月）15 時 30 分～17 時 00 分

2. 場所：市役所 305 会議室

3. 出席者（敬称略）

三木 正夫 市長

教育委員会：勝山幸則教育長、二ノ宮邦彦教育長職務代理者、

土屋保男教育委員、山下美知子教育委員、村石忍教育委員

事務局：中島総務部長、山岸教育次長、中村学校教育課長、後藤主任指導主事、宮崎指導主事、北村指導主事、松木指導主事、西原指導主事、安川学校教育課教育政策係長、山本学校教育課庶務係長、返町学校教育課庶務係

開 会 （教育次長）

1 市長あいさつ

2 勝山教育長あいさつ

- ・協議事項について、教育長より順番の入れ替えの説明があった。「これからの水泳学習に関する方針」を最初とし、「新しい学校づくり基本計画（案）」と「全国学力・学習状況調査結果速報について」は、決定事項ではないこと、個人情報が含まれることから非公開となる旨説明があった。

3 協議事項

（1）「これからの水泳学習に関する方針」について（学校教育課長より説明）

- ・「須坂市立小中学校におけるこれからの水泳学習に関する方針（案）」について、6 月 1 日より 30 日にかけてパブリックコメントの募集を行い、17 名より 63 件の意見をいただいた。
- ・今年度豊丘小学校の水泳授業を高甫小学校のプール、長電スイミングスクールのプールを借りて行ったことについて、児童、先生、保護者を対象としてアンケート調査を実施した。
- ・市内小中学校へ水泳インストラクターを派遣したことについてもアンケート調査を行い、その結果を方針案へ反映した。
- ・以前示した方針案について、修正した部分について説明する。
- ・アレルギー性疾患を持つ児童生徒等への配慮について、旧案では「水着以外の衣類」としていた部分がわかりづらいという意見があったため、「ラッシュガード等」という表現に改めた。
- ・熱中症対策について、熱中症対策の内容についてわかりづらいという意見があった。対

策について具体的に示すため、須坂市教育委員会で定めている「須坂市立小・中・支援学校における熱中症ガイドライン」のほか「国・県からの通知」に基づき対策を行うとした。

- ・水の事故防止のための学習について、着衣永についてのご意見をいくつかいただいた。
「安全確保につながる運動」に取り組むという表現については、学習指導要領に定められている。着衣永をすることははっきり示さない理由としては、着衣永は水が汚れるため、長電スイミングスクールやサマーランドでは実施できないため。学校で実施できる理由としては、着衣永を水泳授業の最後として、そのあとプール授業を終了できるという事情があるため。着衣永については実施できる学校では実施し、できない学校についてはプールの管理者と相談してから実施を検討する。
- ・学習指導要領上の問題はない。
- ・水泳インストラクターの活用について、旧案については中学校 1 年生について実施する記載があったが、今年度インストラクターを派遣したのは中学校 1 校のみであり、ほかの 3 校については希望がなく実施しなかった。実施した中学校についても指導の内容はよかったが派遣は必ずしもなくて良いとのアンケート結果だったため、削除した。
- ・小学校について、1・3・5 年生だけではなく全学年で実施してほしいという意見もあったが、インストラクターの人数を確保することが難しく、予定通り指導内容が変わる 1・3・5 年生での実施で進めていく。
- ・留意事項①の「高温日・低温日の対策」について、プールの実施について 7 月の暑い時期としていたが、6 月のプール授業の始まりの時期も水温が低いなどがあり 2 時限連続授業が厳しいのではないかという意見があったため、それを反映し「2 時限分を連続して行うことによる児童生徒の疲労感を考慮し、水温が上がりにくい 6 月中旬や、猛暑日が続く 7 月の水泳授業については、屋内プール施設を活用することを検討します」とした。
- ・熱中症対策については具体的にという意見があったため先ほどと同じようにガイドラインについて記載を追加した。
- ・②の「水位等の調整」について、子どもたちに水位を合わせてくれるか心配だという意見があった。「校外プール施設に低学年専用のプールが無い場合は、水深調整台を使う等して、学年に見合った環境を整えることとします」とした。
- ・③の「予備日の確保」について、パブリックコメントでご意見をいただいた。実際に豊丘小学校では予備日を設けていたが、明文化した。
- ・定例教育委員会で議案として上げ、教育委員会では承認いただいた。総合教育会議で承認いただければ方針を決定としたい。決定後方針に基づいて水泳授業と学校プールのあり方について決めていきたい。特に学校プールの修繕・更新・廃止について、基準に照らして今後修繕か廃止かを決めていくが、廃止となった場合はまずは子どもたち・保護者に説明して進めていきたい。

市長：

- ・学校のプールの修繕・更新・廃止について、すべて廃止した市町村もある。色々な意見

があったが総合的に考えて、全て廃止にしたほうがプラスになると判断した自治体もあった。

- ・子どもたちのアンケート結果について教えてほしい。

学校教育課長：

- ・高甫小学校と長電スイミングスクールでのプール授業についてはほぼよかったという意見だった。また、インストラクターの指導についてわかりやすかったという回答が多かった。

市長：

- ・教員採用に関して水泳が必修ではなくなったということを知らなかったが、そうなのか。

教育長：

- ・今は体育専門の教員がいるため、外されている。必ずしも教員全員に泳力があるわけではなく、インストラクターの領域にはいかない。

市長：

- ・授業時間も昔とは違うのか。

教育長：

- ・今は平均 10 時間。昔のほうが多かったし夏休み中もプールの開放をしていたが、現在は熱中症対策のためやっていない。

市長：

- ・夏休みのプール開放はしていないのか。

校教育課長：

- ・していない。実質プールを使用する期間は 1 か月ちょっととなっている。

市長：

- ・泳げるようになるためにはある程度しっかりしたコーチがついたほうがいいということか。昔は夏休みに泳げるように頑張ったりしたが、今の状況で子どもたちの泳力を上げるために何がいいかということが大事。

委員：

- ・自分は背が低かったため、プールの冷たい水が苦手だった。昔は水泳帽の線が増えていくなどあり、泳ぎの苦手な自分にとってはつらいことも多かったが、今はスクールなど様々な環境が整っている。学校でインストラクターに教えてもらえることは子どもた

ちにとってはいいと思う。

市長：

- ・方針案についてお認めいただけるか。

特に反対や修正意見はなく、承認された。

市長より、以下の協議については非公開事項となる旨説明された。

一部協議について非公開期限を過ぎたため、会議録を公開とした。

(2)「新しい学校づくり基本計画（案）」について

非公開期限を過ぎたため、会議録を公開とする。

「新しい学校づくり基本計画（案）」について教育長より説明があった。

- ・「新しい学校づくり」について、「須坂学園構想」というものを考えている。9年間の継続した学び、非認知能力、多様な考えなどを取り入れる構想となる。
- ・市全体を「学園」として、どこか一つの地域ではなく、市の学校すべてを変えていく。
- ・これから子どもたちは自ら学びを作って自分の考え、思考を表現していく必要がある。
- ・地域コミュニティと学校についても問題として浮かび上がってくるほか、学校に対する地域の愛情なども関係してくる。
- ・教育委員会だけでは決められない問題であるため、市全体として話をしていきたい。

引き続き教育政策係長と指導主事より詳しい説明があった。

- ・須坂市では「子どもの学びの在り方検討会」の提言を受けて「須坂モデル」を作成した。
- ・「須坂モデル」の底流にあるものは、学びがつながっていくこと。社会に出たときに自分の道を自分の力で切り開いていくことを目指している。
- ・「須坂モデル」を実現するために、現在も園・小・中の学びの接続を大事にしているが、今後はさらに小中一貫教育を進めていくことが重要であると考えている。
- ・現在喫緊の課題として少子化による児童生徒数の減少がある。多様な考え方に会える機会が減少しているため、その課題解決のための学校の適正な規模はどのようなものかを「小中適正規模審議会」で二年案審議を続けてきた。
- ・審議会より小中一貫教育に取り組むために、ソフト面でもハード面でも変えていく必要がある。これまでの六・三制のカリキュラムの枠を超えて新しい学校の姿を考えていく必要があるほか、多様な価値観と出会える学級数、学級の人数を確保する重要性が答申された。
- ・小中一貫教育を進めていくためには従来の学校の形を見直していく必要がある。
- ・須坂市が目指す学校の姿は、小学校の学びが中学校につながり、社会に生きる力を伸ばす学校、多様な価値観に出会うように、多くの友と地域と共に歩み学び合える学校、一人ひとりに寄り添って個を認め合える教育環境のある学校。
- ・新しい学校、学びを実現するめに小中一貫の学園構想を進める。
- ・単に児童数生徒数が減った地域をどうにかするというのではなく須坂市全体を考えた

学校編成をする。

- すべての学校で小中一貫として学びの連携について具体的に取り組んでいく。
- 少子化は喫緊の課題と言える。2040年には須坂市の子どもは現在より36%減少する。
- 須坂市の新しい学びの形として考えているのは、施設分離型もしくは一体型の義務教育学校と施設併設型もしくは一体型の小中一貫校、支援学校一体型の学校。
- 東中ブロックは児童生徒数のシミュレーションから施設分離型の義務教育学校が適していると考えている。既存の校舎を使う。東中ブロックから取り組む理由としては東中学校の生徒数の減少により教員数も減少し、専科教員の確保が困難であることが喫緊の課題であるため。義務教育学校とすることで小中学校の教員を一つの組織の中で適正に配置することができる。
- 相森中学校区は現在のところ施設一体型の義務教育学校の設置を考えている。
- 常盤中、墨坂中ブロックには児童生徒数の数から施設一体型または隣接型の小中一貫校の設置を考えている。
- 小中一貫校は前提として小学校と中学校が同じ学校区であることがあるため、現在の学区の見直しを考えている。通学距離も考え、場合によっては通学バスの導入も考えているがいずれにせよ将来の適正な児童生徒数を予測して学区を検討していく。
- 学区については市民の一番の関心となるものだと考えているので、丁寧に説明していく。
- 須坂市教育委員会は子どもの数だけで学園構想を考えているわけではなく、小中一貫教育をどう進めるかも含めて学区の検討をしているため、今とは全く違う学区となる可能性もある。現在の児童生徒の通学距離ももちろんだが、様々なことを念頭において学区の検討を進めていく必要がある。
- 7月に教育委員会で茨城県つくば市の小中一貫教育の視察を行った。
- 視察した学校のうち一つは義務教育学校。中学校2校と小学校7校を合併し義務教育学校となった。児童生徒数1,000人規模の大きな学校。
- 学区が非常に広く、7割の児童生徒がスクールバスを利用している。
- 9年間で系統的な学習を行っている。小学校と中学校の乗り入れの授業や、先生の専門性を生かした授業が義務教育学校では可能。
- 職員室は小中合同で、すべての先生が一つの職員室にいる。義務教育学校ということで保健室も非常に広がった。
- 教室については壁がスライド式となっており、開放すると老化とつながるため開放的な設計となっていた。
- 中間教室もあり、直接中間教室に入れるような玄関を設置している。昇降口を通らなくても中間教室へ直接行ける工夫がされていた。
- 児童生徒数の増加に合わせて教室を増やすことも可能な設計となっている。
- 再編前の各学校の校歌の歌詞を校内に掲示しており、再編前の学校についても大切にしていた。
- 二つ目の視察先は併設型の小中一貫校。小学校と中学校にそれぞれ校長がおり、施設が隣同士になっている。
- 施設隣接型ということで中学校の教員が小学校へ来て専門性の高い授業を行うなどして

いる。

- ・また行事においても小中学校のかかわりを大切にしている。
- ・授業の内容によっては教室だけではなく交流スペースなども使い、学校の様々な場所で学びを進めることができるようになっていた。
- ・小中共通の図書館があるが、休日は市民へ開放されている。
- ・義務教育学校の開校に際しPTAからアンケートをとったところ、クラス替えができることなどが評価点として挙げられた。また、いろいろな人の意見を聞くことができることや、小学校のうちから中学校の様子を見ることができることの利点、教科担任制の導入ができたことなどが挙げられた。
- ・小中一貫校については義務教育学校と同じく小中で連続した学びができること、小学校と中学校の教員の行き来ができることなどが利点として挙げられた。
- ・クラス編成については人間関係を重視して行っている。
- ・なぜ義務教育学校ではなく小中一貫校にしたのかという質問に対して、児童生徒数が2,000人を超える規模になってしまうと、義務教育学校では校長を一人しかおけないため、管理上のデメリットがあった。小中一貫校であれば小学校と中学校に一人ずつ校長をおくことができ、かつ小中の行き来もできるためとの回答があった。
- ・つくば市では主に中学校区を中心として小中連携の義務教育学校・小中一貫校を作っている。
- ・須坂市では今後義務教育学校、小中一貫校を基本方針案に組み込んで、市民の皆様の声を聴いていきたい。

市長：

- ・質問等はあるか。
- ・スケジュールについては今後説明されるのか。

教育長：

- ・再編は同時にはできないため一つずつ進めていくことになる。不公平と思われるかもしれないが、まず東中学校区の少子化が喫緊の課題としてあるため、そこから始めたい。豊丘小学校については来年度1・2年生が複式学級となり、東中学校では生徒数の減少により教科担任が欠けてしまう。
- ・次に市内で一番複雑な学区を持っている常盤中学校について確認していき、その後相森、墨坂中学校と進めていくが、最終的に須坂市の学校すべてが小中の連携をとった教育を行っていく予定。

市長：

- ・まず学園構想自体を理解することが大変である。メリットとデメリットをはっきりさせることが重要と感じる。少ない人数のデメリットなどもしっかり上げていくべき。地域のつながりも大切だが、子どもたちにとってプラスであることを考えなければならない。子どもたちにプラスであることを伝えた上で地域とのつながりを重要にしていくべき。

- ・教育委員会内の意見はどうか。

委員：

- ・視察へ行って一番驚いたのは統合について子どもたちも保護者も非常に好意的であったこと。小さい学校の子どもたちは自分の通っていた学校がなくなって寂しい思いを抱えているのかと思っていたが、新しい友人ができることなどに非常に期待を持っていた。情報交換も盛んに行われており、多様な価値観の中で成長できたというアンケート回答が多かった。

委員：

- ・視察へ行って考えたのは、市の人口規模や学校数も違うのでつくば市と須坂市を一概に一緒として考えることは難しいということ。どの学校へ行っても同じ水準の教育を受けられることを大切にすべきと感じる。複式学級にするとどうしても担任の先生のオーバーワークを招いてしまうことも問題と感じた。

委員：

- ・複式学級について来年度から実際に豊丘小学校で開始になるという現実がある。どのように手を打っていくか。豊丘小学校は東三校から外れてしまい今までの交流がなくなってしまうとしたら残念だが、今後の児童生徒数の推移を見てそのような編成にしたのか。

学校教育課長：

- ・喫緊の課題を抱えているのが東中学校と豊丘小学校。東中学校は先生の数が足りなくなってしまうことに対して、生徒数の問題をクリアしなければならない。豊丘小学校についてはすぐにでも複式学級になってしまう状況で、東中学校よりも緊急性が高い。位置的に東中学校へ行くよりも須坂小学校へ入るほうが交通的に安全である。豊丘地区についてはかつて小山地区と一緒にだったという歴史もある。

委員：

- ・そういったことをきちんと地域の方に説明できればいいと感じる。

教育長：

- ・高甫小学校について、高甫小学校区は広い。上八町などから東中学校は遠いと思うが、実際そこまでの距離ではない。すべての距離を測っており、なおかつスクールバスの利用も考えている。高甫小学校の人数だけで東中学校への編入を決めているわけではなく、通学距離のことなど総合的に考えての構想。

指導主事：

- ・豊丘小学校から須坂小学校まで車で9分。小山小学校は8分。仁礼小学校へ行くには12分かかる。山の上の細い道を通ればもっと早く行けるが、通学には適していない。スクー

ルバスということを考えたときに通る道ではないと考える。また高甫小学校から仁礼小学校までは6分、東中学校までは3分となっている。

委員：

- ・そのような検証のもとに立って構想をしているということを、地域住民に丁寧に説明すべきと思う。子どもたちにとっての環境を多方面から検証した結果、作成された構想だということをしっかり地域に説明していったほしい。
- ・適正規模審議会についても、開催自体を知らない人が多く、再編についても知らないという反応が多い。しっかり皆さんに聞いていただいて、納得や理解を得ることが重要。

市長：

- ・市民への説明のスケジュールはどうか。

学校教育課長：

- ・12月までに案を作り、1月から説明する予定。

市長：

- ・発表するときは豊丘小学校、東中学校のことだけではなく「学園構想」として打ち出すのか。

学校教育課長：

- ・「須坂学園構想」として打ち出す。東中や豊丘小だけだとなぜその地域だけなのかという疑問につながる。

指導主事：

- ・相森中学校で保護者に話したとき、東三校という言葉が先走っており、東三校のことだと思っている方もいた。今後豊洲小学校も新入生が一桁になっていく時代を見据えて、全体を見せていくことが重要。

市長：

- ・過去、日野小学校と豊洲小学校の統合の話があったと記憶している。うまくいかなかったのはなぜか。

学校教育課長：

- ・地元からの反対があったため。またその時に市長選があり、再編に反対の立場を示した候補者が当選となった。

総務部長：

- ・学園構想があるべき姿と思う反面、とても大きな計画であり、あと15年でそれをやると

というのは驚きであると感じる。市民の反響も大きいと予想される。そこで問われるのは市が本気なのかということ。当然財政のことも問われる。途中までやったが財政的理由でとん挫する可能性もあるため、既存の校舎をどう利用するかも重要であると思う。

- ・行政的な手続きについても、2026 年度から須坂市総合計画の後期五か年計画の策定があるが、そことの整合性も持たせる必要がある。
- ・また、地元の感情も重要。先ほど距離の問題が出たが、現在の学区編成となった理由がきちんとあると思う。その経緯についても調べて考えておく必要を感じる。
- ・それらを考えていくと、年末に方針案を打ち出す前にしっかりとした準備をしていく必要があると感じる。

教育長：

- ・長野県内での例を挙げると、諏訪市も学園構想を始めているが、須坂市ほど細かく決めているはいない。東中学校・高甫小学校ブロックを考えたときに、そこは喫緊の課題として取り組んでいくが、その先については順次となる。今後の人口の変化や財政状況も含めて、そのたびに考えながら柔軟に対応できる計画としている。
- ・地域住民の方が多くの感情を持っているのは当たり前であるので、そこはしっかりと考えていきたい。

学校教育課長：

- ・子育て世代へのアンケートについては、「子どもの数が少なくてかわいそうだ」という意見も出ている。

市長：

- ・そこそが重要。誰のための学園構想なのかをはっきりと出していくべき。説明をすれば理解を得られると思うが、財政的なことを考えることは重要と思う。まだ使える建物については有効に利用するなど検討してほしい。

指導主事：

- ・どこかの小学校をなくすという話ではなく、須坂市の学校をいったんすべてなくして、学園構想を作って子どもたちの教育に生かすということが学園構想の出発点である。新しい校舎の魅力もあるが、教育の中身の魅力についてしっかり訴えていく必要がある。このような教育ができる、そのために学園構想が必要だという話をしっかり伝えていくべきと感じる。

市長：

- ・話については賛成するが、財源の問題は切り離せない。期間については検討の余地がある。教育の中身についての重要性は感じている。須坂市らしい教育をしてほしい。両面的に進めていくことが重要と思う。

指導主事：

- ・三条市などは学園構想を進める中で教員研修を盛んに行っている。市教委が主導して市内の教育体制を整えることも我々が考えていかなければいけない課題と思う。

市長：

- ・重要であるのはこれをしっかりと進めていくという意味。なんのためにやっているのか、純粋に子どもの教育のために進めていくという意味を持つことが重要。
 - ・タイムスケジュールについては検討の余地があるが、方針としてはこのまま進めていっても良いか。
- (全員同意)

指導主事：

- ・これから子育てをする世代が不安に思わない環境を整えることが重要。須坂支援学校についても教室が非常に手狭になってきている。子どもたちや保護者が安心できる環境を整えることが重要と思う。

委員：

- ・保護者目線で見たと、実際に子どもを学校へ通わせている親としては、いじめがあったり担任の先生と合わない、なじめないときに 9 年間環境が変わらないことに不安を感じる。たとえば多クラスになったときにクラス替えや担任の先生を定期的に変えることや、専科教員がいることによって子どものよりどころが増えることなど、そういったメリットを明確に訴えることも必要と感じる。そのための学園構想であることも伝えてほしい。

指導主事：

- ・現在高校生と交流している中で、多くの友人や多くの先生とかかわりを持つことがとても良い経験だったという話を聞く。単級だとかなわないことだが、多くの価値観と触れ合うことは重要なことだと思う。

教育長：

- ・教員にとっても、一クラスだと相談できる相手がいないという問題がある。同じ学年をもつ複数の先生がいることで、相談し合い、知恵を出し合うことができるが、一クラスしかないと崩れてしまったときに立て直すことが難しい。

市長：

- ・そういった話は非常に説得力がある。先生の現状からくる子どもたちの環境ということは市民に対して大きく響くのではないか。

指導主事：

- ・そもそも学校現場にいないければ、それがわからない。すべての学校にすべての先生が配置

されることが当たり前と思う人が多いが、実際は児童数で配置される先生の数も決まってくる。学級数によって専科教員の配置が換わることも知られていない。そういったところの理解も含めて話をしていければいいと思う。

委員：

- ・学級数によって教員の配置が決まるということは、教育委員会のなかでは周知されているもやはり一般の市民は知らないことだと思う。一番は子どもたちの環境をよくするための学園構想であることを伝えていく必要がある。

市長：

- ・実際の学校現場の先生方の話を聞いていただくということが市民の理解を得るのには必要と感じる。保護者への話を最初にすべきではないか。

委員：

- ・PTA総会の場合などで保護者にお話しすることもできる。時間をいただいて伝えることから始めることもいいと思う。

市長：

- ・説明会についてはまた相談しつつ、この学園構想を進めていってほしい。

(3) 全国学力・学習状況調査 結果速報について

- ・非公開とする。

以上